⑰　目と目の距離は心と心の距離

2013．4執筆

新しいキリン舎に移って早5ヶ月が過ぎようとしています。キリンたちも私たちも少しずつこの施設に慣れてきたように思います。

毎日毎日いろいろなことがあってあっという間に日々が過ぎて行きます。その中で，最近とても気になっていることがあるのです。それは以前のキリン舎と大きく違うある場所によって私とキリンの気持ちに隔たりができたように感じるということです。その場所とはキリンの顔の高さにあった「エサ台」です。新しくなってもその「エサ台」だけは残したいと強く願ったのですが，設計上難しく，ヒトとキリンたちが同じ立ち位置で接することになりました。キャットウォークという高い部分に通路ができましたがそこはその「エサ台」のように顔と顔を合わせることはできず，キリンより高い場所なので彼らを見下げる位置になります。

「エサ台」がなくなり，目と目を合わせることにかなりの距離ができました。それが今，私とキリンとの心にも距離が出来てしまったように感じたのです。それに加えてグラウンドもかなり広くなり，キリンたちにとっては良いことだと思うのですが，私とキリンが顔を合わせる回数も減ってしまいました。以前のキリン舎は「狭いながらも楽しい我が家」で，常に私の近くにキリンがいました。キリンたちの顔色も，行動も常に見ていました。しかし，この距離によってそれが減っていきました。

実は，その前に距離を感じたのは室内ではキリンと私たちの間に必ず柵があって，常に柵越しに接していることが原因だと思っていました。それも間違いではありません。以前の獣舎は「エサ台」に上がる時は柵なしで接することができたので柵のせいだと思っていたのです。

先日いつものように枝を取り付け，その時使っていた脚立を運んでいた時，シウンが馬栓棒越しに顔を出していました。私はちょうど持っていた脚立をシウンの前に置き，シウンの顔の高さまで登りました。するとどうでしょう。たった1メートルばかり高い位置に上っただけでシウンの顔が目の前にきて突然以前の「エサ台」がよみがえったのです。シウンの首をギュッと抱きしめたり，2本の角を両手でつかんだり，そしてシウンの目をすぐ近くで見つめて胸にグッとくるものを感じました。それは5カ月ぶりの感覚で，5か月前までは毎日当たり前にやっていた状態でした。この位置でキリンと向き合うことがどんなに大切だったのか身を持って感じた瞬

間でした。
　キリンに限らず，ヒトも他の動物も相手の目の高さに合わせてつきあうということは本当に大事なことです。しかしキリンは特殊な体をしています。顔の位置はいくら背の高いヒトでもキリンと同等にはなりません。私たちが「エサ台」に毎朝上がって挨拶をし，仕事の最後にも上って挨拶をすることはとてもお互いにとっていいことだったのです。

　それがわかってからというもの，キリンたち，特にキヨミズと心が以前より離れてしまったように感じていたことが気掛かりになりました。私がキヨミズと気持ちが離れていると感じるのは，具体的に表現するのは難しいのですが，彼の表情（⑨のキリンの表情を参考にしてください）が暗く感じるのです。今，彼はあまり体調がよくありません。そのために表情も暗いこともありますが，私はそんな時こそ彼と接することで明るい表情に変えて行きたいと思うのですがそれもできません。脚立を使ってキヨミズに近付くとしますか‥‥。

　キリン舎は各動物園で構造が違いますが，私は以前のキリン舎にあった「エサ台」は距離が近付くだけでなく，大部屋にいるキリンと小部屋にいるキリンが同じエサを一緒に食べられることによって，食の細いキヨミズが，いっぱい食べるミライにつられて良く食べるようになったこともあって（次号で詳しくお話します）本当に良い構造だと思っていました。これから新しくキリン舎を建てる所がありましたらぜひ，おススメしたいと思います。

「エサ台」には階段を上っていく。
キヨミズのちょうど首の位置。

「エサ台」に上がるとキリンたちと顔の位置が同じになる。